

総合特別区域の進捗に係る評価
[ライフ・イノベーション分野]

令和3年度

国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市域」地域
活性化総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(5+3)/2=4$

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	国際医療交流の推進	175%	5
2	訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進	-	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 1 = 5$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標1は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.5+3+3)/3=2.8$

2.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

2.3

- ・コロナ下において海外がん患者の受入を続けており、オンライン診療や患者コーディネートの対象を広げていることにより来年度以降の目標達成が期待できる。
- ・コロナ禍のなかで大半の評価指標において測定ができない状況となり、一部の指標で判断することに限界がある。本来は、状況に対応して代替できる指標の検討が取り組まれることが必要であったとも考えられる。目標達成に向けた実施スケジュールにおいても、やや具体性に欠ける面がある。
- ・評価不能の項目がほとんどである。コロナ禍も3年目となり、物理的な活動が不可能な状況の中でも可能な取り組みへの努力が必要ではないか。
- ・次年度以降の実績も加味した上で、計画・課題妥当性の議論ができればと思う。
- ・目標達成にむけて、これまでのがん治療に加えてアンチエイジングやサプリメントの提供にも注力する予定であるならば、これらの取組の数値も定量的目標に含める方が整合的である。
- ・医療サービス収入額(数値目標(1)―②)は、可能な限り高度がん拠点にかかる収入額であると妥当性が高まる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

2.3

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4+2.8+2.3 \times 2) \div 4 = 2.9$

2.9

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。